

以上 (Fig.5), 42.1%が週のほとんどで母親が受ける DV を目撃していた (Fig.6)。

### c. DV 被害による PTSD の有無

出来事チェックリストの結果, DV 被害の他に外傷的出来事を体験したことを報告する者はいたが, 40 名中 39 名が「最もストレスを受けた出来事」として DV 被害に関わるものを挙げていた。調査初回 (ベースライン期) において SCID を行った結果, PTSD の診断基準を満たした者は 40 名中 27 名であった (全体の 67.5%)。

母親が受けた DV 被害の程度が PTSD の各症状および解離症状とどのような関連があるのか検討するため, DVSI 得点と IES-R 得点および DES-II 得点との間で Pearson の積率相関係数 ( $r$ ) を算出した (Table3)。Table3 に示したとおり, 最近 1 年の DVSI 総得点は, IES-R 得点や DES-II 得点との間で有意な正の相関が認められた。DV 被害の中でも, 特に最近 1 年の「性的強要」は, IES-R の侵入症状 ( $r=.34, p<.05$ ), 回避・麻痺症状 ( $r=.34, p<.01$ ), 過覚醒症状 ( $r=.49, p<.01$ ), IES-R 総得点 ( $r=.47, p<.01$ ), DES-II 得点 ( $r=.36, p<.05$ ) のいずれとも有意な相関が認められた。

したがって, DV 被害の中でも特に, 性的強要が母親の PTSD 症状や解離症状の出現・悪化させることが明らかとなった。

### 3) 母子の主な指標の記述統計

1 回目から 5 回目までの各時期における調査対象者の基礎統計量一覧を Table4 および Table5 に示した。なお, 子どもについては, 年齢によって実施できる内容が異なる

ために人数の違いが見られる。

M.I.N.I.については, いずれの時点においても, 気分障害 (大うつ病性障害や気分変調症など) や不安障害 (パニック障害, 広場恐怖, PTSD など) など何らかの診断基準を満たす者が, 対象者の過半数を占めることが明らかとなった (Table4)。特に, 大うつ病性障害と PTSD に多くの該当者が認められた。しかし, 時間経過と共に該当する割合は徐々に減少する傾向にあった。

また, PTSD の診断基準を満たすかどうかを評価するため, 各期において SCID を実施した。SCID で評価された PTSD 症状はすべて DV 被害とその関連事項を起因とするものであった。SCID によって PTSD の診断基準を満たすと判断された者の人数と重症度を Table6 に示した。3 ヶ月後フォローアップ期にかけて PTSD の診断基準を完全に満たす者の割合は減っていたものの, 6 ヶ月後フォローアップ期以降も診断基準を満たす者の割合は 40%を越えていた。また診断基準を満たさなくとも, 症状がすべて消失したわけではなく, PTSD の三症状 (侵入症状, 回避・麻痺症状, 過覚醒症状) は 1 年が経過しても部分的に残存し, 持続していることが明らかとなった。

### 4) 母親の精神状態における時系列的変化

12 ヶ月にわたる全 5 回の調査全てに参加した母親 20 名を分析対象として, DV による生活への影響や, PTSD 症状, 解離症状, トラウマ遭遇後の認知などの時系列的変化を検討した。

DV 被害による生活への影響度の変化を Fig.7 に示した。なお, 生活への影響度は「か

なり影響がある」(4点),「やや影響がある」(3点),「どちらともいえない」(2点),「あまり影響ない」(1点),「全く影響ない」(0点)の4段階で評価されたものである。Fig.7を見ると,3ヵ月時点において生活への悪影響はやや軽減するものの,その後もさまざまな場面で多くの支障が生じていた。また,加害者から新たな危害を加えられる不安(待ち伏せや子どもの連れ去り等)や新たな生活に対する不安(居住場所,経済面など),子どもへの対応に関する不安は毎回報告された。加えて,離婚や面接交渉権をめぐる調停等による心理的な負担が報告されることが多かった。

続いて,同様の20名を対象にIES-RおよびDES-II得点の時系列的変化をFig.8に示した。結果を見ると,3ヵ月後フォローアップ期において,症状が全体として軽減されるものの,それ以降はあまり変化が見られなかった。またIES-Rの総得点は,1年を経過しても高い得点を維持していることが明らかとなった。解離症状については,平均得点は各期とも解離性障害の発症リスクを示すカットオフポイント(30点)は超えていなかった。

同様に,PDSにおける重症度および機能障害の程度の変化をFig.9に示した。IES-Rの結果と同様に,3ヵ月後フォローアップ期にいったん重症度は軽減されるものの,症状は中等度レベルから下がることはなかった。

次に,トラウマ遭遇後の認知の時系列的変化をみるために,PTCI総得点および各下位尺度得点の変化をFig.10に示した。Fig.10に示したとおり,各期におけるPTCI

の総得点および各下位尺度得点は長江・増田ほか(2004)における中央値(総得点:97.0点,自己に関する否定的認知:54.5点,自責の念:14.0点,世界に対する否定的認知:28.0点)を超えたまま維持されていることが明らかにされた。

最後に,SCL-90-Rの各下位尺度の得点の変化をFig.11に示した。いずれの症状も3ヵ月フォローアップ期にいったん改善されるものの,6ヵ月フォローアップ期以降は少し増悪したまま維持されることが明らかとなった。

以上の結果から,PTSD症状を主とする母親の精神症状は,3ヵ月後フォローアップ期に改善がみられる傾向にあるが,それ以降は調査開始1年を経過しても残存し,維持される症状が大きいことが示された。

## 5) 子どもの精神状態,および行動面における時系列的変化

子どもの精神状態や行動面の時系列的変化に関する男女別の傾向については,本研究の昨年度報告書にて検討しているため,今年度は男女合わせた全体的傾向を検討する。全5回の調査全てに参加した子どもを対象として,CBCL,YSR,ADHD-RS-IV-J,CDC,もぐら一ず成績の時系列的変化をそれぞれ検討した。

はじめに,母親によって評価されたCBCLと子ども自身が評価したYSRの時系列的変化を検討した。対象児の精神状態および問題行動のレベルが臨床域レベルであるかを把握するため,CBCLおよびYSRの総得点,内向得点,外向得点のTスコアを算出し,時間経過に伴うTスコアの変化

を Fig.13 に示した。なお T スコアは、59 点以下が健常域、60～63 点が境界域、64 点以上が臨床域とされている。その結果、CBCL については、ベースライン期の総得点と、ベースライン期および 3 ヶ月、6 ヶ月フォローアップ期の内向得点が境界域にあったが、それ以外は健常域におさまっていた。また、全体として緩やかに改善傾向にあることが示された。YSR についてはすべての時点において健常域におさまっており、1 年間を通しての改善の幅も大きいことが示された。

次に、ADHD RS-IV-J 得点の変化を Fig.14 に示した。日本語版作成時（山崎，2001）の平均値は男女別に報告されており、男児の平均値（不注意：4.65±4.41 点，多動・衝動性：2.03±3.02 点，合計：6.68±6.91 点）は女児の平均値（不注意：3.25±3.55 点，多動・衝動性：1.13±2.06 点，合計：4.38±5.17 点）よりも全般的に高くなっていることが分かる。本研究の対象者の得点を見てみると、不注意においても多動・衝動性においても、日本語版作成時の男児の平均値よりを大きく上回るものとなっていた。

CDC 得点の変化についても Fig.4 に合わせて示した。CDC の各期の合計得点の平均は健常群（米国での調査によれば 2.3±2.7 点）を超えているが、解離性障害が疑われるレベルではなかった。

最後に、子ども自身によって行われたもぐら一ずの結果の時系列的変化を検討した。各期のもぐら一ずデータ（正答率，正答率ばらつき，平均反応時間，反応時間ばらつき，見逃し，お手つき）の時系列的変化を Fig.15 に示した。その結果，時間経過と

ともに緩やかに正答率が改善され，お手つきや見逃しが減っていった。

以上をまとめると，子どもの精神症状や問題行動の得点は，健常群に比べて高くなっていたが，時間経過とともに緩やかに改善していくことが明らかとなった。

## 6) 母子相互作用の検討

母子の相互作用を検討するために，子どもの状態の客観的指標といえるもぐら一ず成績と，母親の IES-R，DES-II，PTCI，SCL-90-R といった各指標の得点について相関分析を行った（Table7）。なお，相関分析においては全 5 回分のデータを用いた。

その結果，母親の IES-R の各得点と子どものもぐら一ず成績の間には有意な相関が見られなかった。DES-II 得点に関しては，もぐら一ずの正答率 ( $r=-.20, p<.01$ )，反応時間 ( $r=.17, p<.05$ )，見逃し ( $r=.21, p<.01$ ) との間でそれぞれ有意な相関がみられた。次に PTCI 得点ともぐら一ず成績について見てみると，PTCI の自己に関する否定的認知ともぐら一ず正答率 ( $r=-.15, p<.05$ ) との間に有意な相関が見られた。さらに世界に関する否定的認知に関しては，もぐら一ずの正答率 ( $r=-.16, p<.05$ )，反応時間 ( $r=.17, p<.05$ )，見逃し ( $r=.16, p<.05$ ) とそれぞれ有意な相関がみられた。また SCL-90-R の各下位尺度得点ともぐら一ず成績の相関についても，有意な相関が散見された。

もぐら一ずは子どもに持続的な注意集中を要する課題であり，不注意や衝動性などが客観的に評価される。相関分析の結果から，母親の PTSD 症状そのものよりも解離

症状や否定的認知、対人過敏や怒りといった精神症状に関する悩みが、子どもの不注意や衝動性と相互に関連があることが示唆された。

#### D. 総合考察・まとめ

本研究の目的は、母子双方の精神状態および問題行動が時間経過に伴ってどのように変化するか、どのように相互に影響を及ぼしあっているか、1年間の追跡調査を行うことで検討することであった。

本研究の対象者は日常的に（対象者の52.5%がほぼ毎日）、しかも長期にわたって（72.5%が5年以上）、DV被害を受けていた。対象者全員が長期的な心理的暴力を受けており、付随して身体的暴力や性的強要を受けていた人も多かった。対象児に関しても、ほぼ全員がDV被害を目撃しており（93.0%）、多くの子どもが直接的にも何らかの被害を受けていた（77.2%）。

DV被害が生活面に及ぼす悪影響も調査開始1年を経ても大きく改善されることはないことが本研究から明らかにされた。そして、不安定な生活環境は母親のPTSD症状の悪化につながることも示された。これらの結果は、DVの問題は単に加害者と被害者を引き離せばよいということではないこと、そして加害者から避難した後の被害者に対するケアやフォローについて再考する必要があることを意味しているといえるだろう。本研究の対象者は、加害者から避難した後に精神科外来でメンタルケアと生活のフォローを継続して受けている人々である。しかし、そのような人々であっても、

長期にわたってDV被害の影響に苦しめられていることが本研究から明らかにされた。いかにDV被害が被害者の人生に大きなインパクトを与えるものであるかを窺い知ることができるだろう。被害者のメンタルヘルスを守るためにも、単に加害者から避難させるだけではなく、避難後早期に被害者が安全に生活でき、安心して専門的なケアとフォローが受けられる環境づくりに重点を置くことが求められる。

そしてまた、母親はトラウマ遭遇後に自己や世界に関する否定的認知を強く抱いており、1年を経過してもなかなか改善されていないことが明らかとなった。母親自身が自分や世界をどのように感じ考えているかが、子どもの不注意や衝動性とも関連していたことは特記すべき知見といえる。母子のどちらがどちらに影響を与えているかは明確ではないが、そこには母子の言語的・非言語的やりとりが媒介していることが当然想定される。その母子のやりとり自体に焦点を当てた介入により、母子双方に改善が見込まれ、よりよい循環が生まれると考えられる。これまで本研究を実施してきた、東京女子医科大学附属女性生涯健康センターでは、母子相互交流療法（Parent Child Interaction Therapy: PCIT）の導入を進め、治療効果を検討しているところである。

さて本研究における1年間の追跡調査により、これまで十分に明らかにされていなかった加害者から避難した後の母子の変化について明らかにすることができた。また対象となる母子の人数が増え、より安定した結果が得られてきたといえよう。暴力被

害から逃れてきた母子の追跡研究が国内外を通じて十分に行われてこなかった大きな理由に、シェルター等の施設利用後に被害者の追跡が困難であることが挙げられる。そして、DV 被害者は加害者から逃れた後に山積する課題（加害者からの身の保全・安全確保、離婚等の法的手続き、生活環境の整備、自身や子どものケア、親子関係・家庭の再構築など）をこなすことで精一杯であり、研究に参加できる余裕がないことも挙げられる。DV 被害者を対象とした追跡調査は非常に難しいといえ、その困難な状況下で得られた本研究のデータは、DV 被害者を支援する上で非常に希少で意義のあるものといえる。

注)

PTSD に該当した者の人数が SCID と M.I.N.I.で相違があったが、これは PTSD の診断基準Aの表現が SCID と M.I.N.I.で異なるために起こったと考えられる。自身が体験した DV 被害を SCID における基準 A「気持ちをひどく動揺させる出来事」には該当するが、M.I.N.I.における基準 A「あなたか他の誰かが、実際に死んだり、危うく死にそう、または重傷を負うような、極めて外傷的な出来事」には該当しないと回答する者が多く、そのために M.I.N.I.において PTSD の診断基準を満たした者の人数は SCID において満たした者の人数よりも少なくなっていた (Table4 参照)。同様の現象は吉田・小西ほか (2005) においても認められており、DV 被害によって明らかに PTSD 症状が認められる者であっても、M.I.N.I.では PTSD の診断がつかない可能

性を指摘している。

加茂 (2004) は、長期間の暴力被害によって自己評価の低下を主体とした認知障害が起こることを指摘している。したがって、PTSD の診断基準Aを満たすような出来事であったとしても、「自分の体験は大した出来事ではない」と自己の体験を実際よりも低く評価してしまうために、M.I.N.I.では PTSD と判断されない可能性が考えられる。

追記)

本研究は、今後の DV 被害者に対するケアの必要性を理解していただき、積極的に調査に参加して下さった対象者の皆様のおかげで実施することができました。この場をお借りして、記して感謝の意を申し上げます。

## E. 文献

American Psychiatric Association (著) 高橋三郎・大野裕ほか (訳) 2003 DSM-IV-TR 精神疾患の分類と診断の手引き 医学書院

First, M. B., Gibbon, M., et al. (著) 北村俊則・富田拓郎ほか 2003 精神科診断面接マニュアル SCID—使用の手引き・テスト用紙 日本評論社.

石井朝子・飛鳥井望ほか 2003 ドメスティックバイレンススクリーニング尺度 (DVSI) の作成及び信頼性・妥当性の検討 精神医学, 45, 817-823.

- 石井朝子 2005 DV 被害母子に対する援助介入に関する研究 平成 16 年度厚生労働科学研究 子ども家庭総合研究事業 報告書 (主任研究者 石井朝子)
- 井潤知美・上林靖子ほか 2001 Child Behavior Checklist/4-18 日本語版の開発 小児の精神と神経, 41, 243-252.
- 神村栄一・海老原由香ほか 1995 対処方略の三次元モデルの検討と新しい尺度 (TAC-24) の作成 教育相談研究, 33, 41-47.
- 加茂登志子 2004 PTSD と診断されたドメスティック・バイオレンス被害女性の 1 例 こころのライブラリー (11) PTSD (心的外傷後ストレス障害) 星和書店 pp147-163.
- 金吉晴・柳田多美ほか 2005 DV 被害を受けた女性とその児童の精神健康調査 厚生労働科学研究費補助金 子どもと家庭に関する総合研究事業 総括・分担研究報告書 (主任研究者 金吉晴)
- 金吉晴・加茂登志子ほか 2008 DV 被害を受けた母子へのフォローアップ研究 (1) — 3 ヶ月後の精神的健康・行動・生活と母子相互作用の変化に関する検討 — 厚生労働科学研究費補助金 子どもと家庭に関する総合研究事業 総括・分担研究報告書 (主任研究者 金吉晴)
- 金吉晴・加茂登志子ほか 2010 DV 被害を受けた母子へのフォローアップ研究 — 1 年後の精神的健康・行動・生活と母子相互作用の変化に関する検討 — 厚生労働科学研究費補助金 障害者対策総合研究事業 分担研究報告書 (主任研究者 金吉晴)
- 長江信和・増田智美ほか 2004 大学生を対象としたライフ・イベントの実態調査と日本版外傷後認知尺度の開発 行動療法研究, 30, 113-124.
- 中田洋二郎・上林靖子ほか 1999 幼児の行動チェックリスト (CBCL/2-3) の日本語版作成に関する研究 小児の精神と神経, 39, 305-316.
- 小川雅美 1991 PBI (Parental Bonding Instrument) 日本版の信頼性, 妥当性に関する研究 精神科治療学, 6, 1193-1201.
- 奥山真紀子 2005 被害児童への治療・ケアのあり方に関する研究 平成 16 年度厚生労働科学研究 子ども家庭総合研究事業 報告書 (主任研究者 石井朝子)
- Parker, G., Tupling, H., Brown. L. B. 1979 A parental Bonding Instrument. *British Journal of Medical Psychology*, 52, 1-10.
- Putnam, F. W., Helmer, K. et al. 1993 Development, reliability, and validity of a child dissociation scale. *Child Abuse and Neglect*, 17, 731-741.

Sheehan, D. V., & Lecrubier, Y. (著) 大坪  
天平・宮岡等・上島国利(訳) 2000  
M.I.N.I.—精神疾患簡易構造化面接法 星  
和書店.

1. 特許取得 なし。
2. 実用新案登録 なし。
3. その他 なし。

山崎晃資 2001 高機能広汎性発達障害お  
よびアスペルガー症候群の神経心理学的特  
徴に関する研究 厚生科学研究補助金 障  
害保険福祉総合研究事業 総括・分担報告書  
(主任研究者 石井 哲夫)

吉田博美・小西聖子ほか 2005 ドメステ  
ィック・バイオレンス被害者における精神  
疾患の実態と被害体験の及ぼす影響 トラ  
ウマティック・ストレス, 3, 83-89.

## F. 関連業績

### 著作

加茂登志子 8. ドメスティック・バイオ  
レンス 心的トラウマの理解とケア 第2  
版 じほう, 152-161.

### 研究発表

Masaki, T., Ogawa, A., Yanagita, T.,  
Kamo, T., & Kim, Y. 2006 *Research on  
the mental health of the mother and her  
child who suffered DV damage: Interim  
Report(1)*. Poster session presented at the  
22nd annual meeting of the International  
Society for Traumatic Stress Studies,  
Hollywood, CA.

G. 知的財産権の出願・登録状況(予  
定を含む。)

Table1 DVSI(総得点, 下位尺度得点)の平均得点と標準偏差(SD)

| (N=39) | DVSI  |      |      |      |       |      |       |       |
|--------|-------|------|------|------|-------|------|-------|-------|
|        | 身体的暴行 |      | 性的強要 |      | 心理的攻撃 |      | 合計    |       |
|        | 平均    | SD   | 平均   | SD   | 平均    | SD   | 平均    | SD    |
| 最近1年   | 6.23  | 6.97 | 4.99 | 8.06 | 11.59 | 6.89 | 22.81 | 17.89 |
| 最悪時*   | 8.94  | 9.18 | 3.78 | 6.80 | 15.81 | 3.42 | 28.53 | 14.69 |

\* 最悪時のN=36

Table2 母親が受けたDV被害の内容と被害期間

|         | 身体的暴力<br>(N=40) | 性的暴力<br>(N=40) | 心理的暴力(N=40) |      |       | 追求<br>(N=40) | その他<br>(N=40) |
|---------|-----------------|----------------|-------------|------|-------|--------------|---------------|
|         |                 |                | 言葉の暴力       | 行動制限 | 経済的暴力 |              |               |
| 被害なし    | 5               | 16             | 0           | 5    | 8     | 17           | 23            |
| 被害あり    | 35              | 24             | 40 *        | 35 * | 32    | 23 *         | 17            |
| 被害期間    |                 |                |             |      |       |              |               |
| 1ヶ月未満   | 4               | 0              | 0           | 0    | 0     | 3            | 1             |
| ~1年未満   | 2               | 2              | 2           | 3    | 4     | 9            | 1             |
| 1~3年未満  | 5               | 6              | 8           | 3    | 6     | 3            | 4             |
| 3~5年未満  | 4               | 3              | 3           | 4    | 2     | 1            | 3             |
| 5~10年未満 | 10              | 6              | 9 *         | 8 *  | 7     | 4            | 1             |
| 10年以上   | 10              | 6              | 17          | 16   | 13    | 1            | 3             |
| 不明      | 0               | 2              | 1           | 0    | 0     | 2            | 3             |

\* 夫の親戚からの被害を含む。

Table3 DVSI得点とIES-R(母親)得点, およびDES-II得点間における相関分析の結果

|                 | IES-R(母親) |         |        |        | DES-II |
|-----------------|-----------|---------|--------|--------|--------|
|                 | 侵入症状      | 回避・麻痺症状 | 過覚醒症状  | 総得点    |        |
| DVSI(最近1年) N=39 |           |         |        |        |        |
| 身体的暴行           | .21       | .41 **  | .24    | .32 *  | .24    |
| 性的強要            | .34 *     | .46 **  | .49 ** | .47 ** | .36 *  |
| 心理的攻撃           | .25       | .30     | .25    | .30    | .17    |
| 総得点             | .33 *     | .49 **  | .41 *  | .45 ** | .32 *  |
| DVSI(最悪時) N=36  |           |         |        |        |        |
| 身体的暴行           | .14       | .14     | .06    | .13    | .17    |
| 性的強要            | .44 **    | .43 **  | .54 ** | .51 ** | .46 ** |
| 心理的攻撃           | .20       | .24     | .17    | .22    | .24    |
| 総得点             | .34 *     | .34 *   | .33    | .37 *  | .38 *  |

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$



Table4 母親の各指標の記述統計

|                                 | N  | 1回目<br>統計量     | N  | 2回目<br>統計量     | N  | 3回目<br>統計量     | N  | 4回目<br>統計量     | N  | 5回目<br>統計量     |
|---------------------------------|----|----------------|----|----------------|----|----------------|----|----------------|----|----------------|
| <u>《フェイスシート》<sup>b)</sup></u>   |    |                |    |                |    |                |    |                |    |                |
| 離婚成立                            | 40 | 17 (42.50)     | 30 | 14 (46.67)     | 30 | 15 (50.00)     | 22 | 15 (68.18)     | 24 | 15 (62.50)     |
| 何らかの調停・裁判中                      | 40 | 9 (22.50)      | 30 | 7 (23.33)      | 30 | 8 (26.67)      | 22 | 5 (22.73)      | 24 | 5 (20.83)      |
| 就業(アルバイト含む)                     | 40 | 14 (35.00)     | 30 | 12 (40.00)     | 30 | 16 (53.33)     | 22 | 11 (50.00)     | 24 | 14 (58.33)     |
| <u>《DVの生活への影響》<sup>a)</sup></u> |    |                |    |                |    |                |    |                |    |                |
| life1 (身の回りの生活)                 | 40 | 3.48 (0.91)    | 28 | 2.89 (1.34)    | 30 | 2.73 (1.28)    | 22 | 2.59 (1.44)    | 24 | 2.96 (1.37)    |
| life2 (職業)                      | 40 | 2.73 (1.45)    | 28 | 2.21 (1.57)    | 30 | 2.70 (1.26)    | 22 | 2.50 (1.47)    | 24 | 2.38 (1.47)    |
| life3 (子どもの学校)                  | 39 | 2.77 (1.61)    | 28 | 1.82 (1.66)    | 30 | 2.33 (1.49)    | 22 | 2.14 (1.58)    | 24 | 2.13 (1.65)    |
| life4 (親との関係)                   | 40 | 2.80 (1.54)    | 28 | 1.89 (1.62)    | 30 | 1.80 (1.63)    | 22 | 2.36 (1.68)    | 24 | 2.33 (1.63)    |
| life5 (友人との関係)                  | 40 | 3.10 (1.41)    | 28 | 1.79 (1.64)    | 30 | 2.13 (1.48)    | 22 | 2.05 (1.59)    | 24 | 2.67 (1.52)    |
| life6 (外出困難)                    | 40 | 2.68 (1.54)    | 28 | 2.04 (1.50)    | 30 | 1.67 (1.49)    | 22 | 1.68 (1.43)    | 24 | 2.17 (1.40)    |
| life7 (その他)                     | 40 | 2.68 (1.77)    | 28 | 2.18 (1.63)    | 30 | 2.70 (1.49)    | 22 | 1.95 (1.79)    | 24 | 1.79 (1.82)    |
| <u>《IES-R》<sup>a)</sup></u>     |    |                |    |                |    |                |    |                |    |                |
| 侵入                              | 40 | 15.38 (8.94)   | 30 | 12.17 (9.45)   | 30 | 12.67 (10.24)  | 22 | 10.73 (8.95)   | 24 | 10.79 (9.09)   |
| 回避                              | 40 | 17.25 (8.72)   | 30 | 12.37 (9.56)   | 30 | 12.60 (10.16)  | 22 | 12.32 (8.81)   | 24 | 12.67 (9.76)   |
| 過覚醒                             | 40 | 12.80 (6.56)   | 30 | 8.33 (6.19)    | 30 | 9.70 (7.63)    | 22 | 8.27 (6.38)    | 24 | 8.75 (6.75)    |
| IES-R合計                         | 40 | 45.43 (22.00)  | 30 | 32.87 (23.22)  | 30 | 34.97 (26.14)  | 22 | 31.45 (22.74)  | 24 | 32.21 (23.64)  |
| <u>《DES-II》<sup>a)</sup></u>    |    |                |    |                |    |                |    |                |    |                |
| DES-II平均                        | 40 | 13.26 (13.06)  | 29 | 9.16 (12.32)   | 30 | 10.93 (15.24)  | 22 | 6.68 (9.74)    | 24 | 7.73 (10.65)   |
| <u>《PTCI》<sup>a)</sup></u>      |    |                |    |                |    |                |    |                |    |                |
| 自己に対する否定的認知                     | 40 | 86.88 (28.89)  | 29 | 73.17 (30.09)  | 30 | 77.80 (30.83)  | 22 | 75.81 (27.45)  | 24 | 75.75 (31.72)  |
| 自責の念                            | 40 | 20.53 (6.75)   | 29 | 17.03 (7.86)   | 30 | 17.90 (7.22)   | 22 | 16.67 (8.62)   | 24 | 16.50 (8.34)   |
| 世界に対する否定的認知                     | 40 | 35.30 (6.71)   | 29 | 32.07 (9.68)   | 30 | 33.13 (8.82)   | 22 | 30.95 (9.97)   | 24 | 31.63 (10.58)  |
| 合計                              | 40 | 142.70 (38.33) | 29 | 122.28 (43.47) | 30 | 128.83 (43.70) | 22 | 123.43 (42.97) | 24 | 123.79 (46.37) |
| <u>《TAG-24》<sup>a)</sup></u>    |    |                |    |                |    |                |    |                |    |                |
| 情報収集                            | 40 | 10.58 (2.93)   | 29 | 10.59 (2.99)   | 30 | 10.77 (2.56)   | 22 | 10.27 (2.78)   | 24 | 9.96 (2.65)    |
| 放棄・諦め                           | 40 | 6.48 (2.59)    | 29 | 6.72 (2.70)    | 30 | 6.93 (3.15)    | 22 | 6.73 (2.47)    | 24 | 6.71 (3.16)    |
| 肯定的解釈                           | 40 | 10.28 (2.59)   | 29 | 9.90 (2.55)    | 30 | 10.37 (2.86)   | 22 | 10.14 (2.37)   | 24 | 10.29 (2.63)   |
| 計画立案                            | 40 | 11.18 (2.70)   | 29 | 10.86 (2.86)   | 30 | 11.27 (2.79)   | 22 | 11.09 (2.86)   | 24 | 11.25 (3.18)   |
| 回避的思考                           | 40 | 9.73 (3.06)    | 29 | 10.14 (3.20)   | 30 | 9.93 (3.45)    | 22 | 9.77 (3.65)    | 24 | 9.54 (2.81)    |
| 気晴らし                            | 40 | 8.35 (2.96)    | 29 | 8.55 (2.82)    | 30 | 8.73 (2.99)    | 22 | 7.68 (2.75)    | 24 | 8.00 (3.01)    |
| カタルシス                           | 40 | 10.68 (2.96)   | 29 | 10.76 (3.00)   | 30 | 11.00 (2.85)   | 22 | 10.00 (2.93)   | 24 | 9.71 (3.34)    |
| 責任転嫁                            | 40 | 4.65 (1.99)    | 29 | 5.03 (2.34)    | 30 | 4.93 (1.68)    | 22 | 4.86 (1.61)    | 24 | 4.71 (1.81)    |
| <u>《SCL-90》<sup>a)</sup></u>    |    |                |    |                |    |                |    |                |    |                |
| SOM                             | 40 | 15.18 (12.09)  | 30 | 9.07 (11.30)   | 30 | 11.63 (12.23)  | 22 | 11.27 (11.81)  | 24 | 11.83 (9.31)   |
| O-C                             | 40 | 16.85 (9.30)   | 30 | 10.53 (9.63)   | 30 | 13.40 (11.37)  | 22 | 10.77 (10.04)  | 24 | 10.92 (8.62)   |
| INT                             | 40 | 10.78 (7.72)   | 30 | 6.57 (6.70)    | 30 | 8.77 (8.52)    | 22 | 8.09 (8.19)    | 24 | 7.50 (6.93)    |
| DEP                             | 40 | 18.70 (10.99)  | 30 | 10.10 (9.30)   | 30 | 13.77 (13.62)  | 22 | 11.68 (11.12)  | 24 | 12.96 (10.89)  |
| ANX                             | 40 | 13.60 (9.76)   | 30 | 8.13 (9.33)    | 30 | 11.53 (11.15)  | 22 | 9.36 (11.20)   | 24 | 9.17 (9.66)    |
| HOS                             | 40 | 4.48 (4.22)    | 30 | 3.63 (4.60)    | 30 | 4.40 (5.26)    | 22 | 3.55 (5.28)    | 24 | 3.75 (5.08)    |
| PHOB                            | 40 | 6.70 (5.95)    | 30 | 3.80 (4.23)    | 30 | 5.07 (5.83)    | 22 | 4.36 (4.62)    | 24 | 4.88 (6.32)    |
| PAR                             | 40 | 4.98 (4.58)    | 30 | 3.40 (5.31)    | 30 | 4.80 (6.07)    | 22 | 4.55 (5.10)    | 24 | 3.79 (5.15)    |
| PSY                             | 40 | 7.55 (7.50)    | 30 | 4.73 (5.68)    | 30 | 6.47 (8.76)    | 22 | 5.64 (7.75)    | 24 | 6.08 (8.38)    |
| <u>《PDS》<sup>a)</sup></u>       |    |                |    |                |    |                |    |                |    |                |
| PTSD重症度                         | 40 | 26.50 (12.66)  | 29 | 20.10 (12.50)  | 30 | 21.33 (14.86)  | 22 | 19.55 (13.61)  | 24 | 20.33 (13.19)  |
| 機能障害                            | 40 | 5.95 (2.80)    | 29 | 4.76 (3.10)    | 30 | 4.70 (3.09)    | 22 | 5.09 (2.62)    | 24 | 4.58 (2.92)    |
| <u>《SCID》<sup>b)</sup></u>      |    |                |    |                |    |                |    |                |    |                |
| PTSD該当                          | 40 | 27 (67.50)     | 29 | 12 (41.38)     | 30 | 15 (50.00)     | 22 | 9 (40.91)      | 24 | 11 (45.83)     |
| <u>《MINI》<sup>b)</sup></u>      |    |                |    |                |    |                |    |                |    |                |
| 何らかの精神疾患(現在症)                   | 40 | 28 (70.00)     | 29 | 15 (51.72)     | 30 | 18 (60.00)     | 22 | 14 (63.64)     | 24 | 13 (54.17)     |
| 気分障害                            | 40 | 21 (52.50)     | 29 | 11 (37.93)     | 30 | 10 (33.33)     | 22 | 8 (36.36)      | 24 | 11 (45.83)     |
| 不安障害(PTSD除く)                    | 40 | 12 (30.00)     | 29 | 9 (31.03)      | 30 | 9 (30.00)      | 22 | 7 (31.82)      | 24 | 6 (25.00)      |
| PTSD                            | 40 | 15 (37.50)     | 29 | 8 (27.59)      | 30 | 9 (30.00)      | 22 | 8 (36.36)      | 24 | 6 (25.00)      |

注) 統計量は、<sup>a)</sup>Mean(SD), <sup>b)</sup>該当人数(%)を表す。

Table5 子どもの各指標の記述統計

|                            | 1回目 |                 | 2回目 |                 | 3回目 |                 | 4回目 |                 | 5回目 |                 |
|----------------------------|-----|-----------------|-----|-----------------|-----|-----------------|-----|-----------------|-----|-----------------|
|                            | N   | 統計量             | N   | 統計量             | N   | 統計量             | N   | 統計量             | N   | 統計量             |
| 性別(男児) <sup>b)</sup>       | 58  | 28 (48.30)      | 43  | 19 (44.20)      | 42  | 16 (38.10)      | 29  | 11 (37.90)      | 31  | 10 (32.30)      |
| 年齢 <sup>a)</sup>           | 58  | 7.50 (3.58)     | 43  | 7.79 (3.77)     | 42  | 8.10 (3.75)     | 29  | 7.90 (3.59)     | 31  | 8.48 (3.76)     |
| 《もぐら一ず》 <sup>a)</sup>      |     |                 |     |                 |     |                 |     |                 |     |                 |
| 正答率                        | 54  | 83.08 (17.52)   | 40  | 84.29 (17.71)   | 38  | 86.91 (17.39)   | 24  | 91.39 (9.38)    | 29  | 93.33 (7.89)    |
| SSD                        | 54  | 6.83 (5.11)     | 40  | 6.23 (5.10)     | 38  | 5.60 (5.15)     | 24  | 4.98 (4.50)     | 29  | 4.22 (3.61)     |
| RT                         | 54  | 553.11 (164.20) | 40  | 523.63 (106.47) | 38  | 521.08 (109.15) | 24  | 540.25 (127.74) | 29  | 525.59 (117.70) |
| RSDT                       | 54  | 124.86 (61.61)  | 40  | 128.35 (70.31)  | 38  | 124.34 (68.72)  | 24  | 126.44 (63.82)  | 29  | 112.20 (53.31)  |
| OE                         | 54  | 5.93 (9.83)     | 40  | 6.12 (9.42)     | 38  | 3.81 (5.80)     | 24  | 3.43 (5.20)     | 29  | 2.96 (5.53)     |
| CE                         | 54  | 11.16 (12.52)   | 40  | 9.58 (10.52)    | 38  | 9.29 (14.11)    | 24  | 5.21 (5.32)     | 29  | 3.73 (3.57)     |
| 《CBCL》 <sup>a)</sup>       |     |                 |     |                 |     |                 |     |                 |     |                 |
| 内向尺度T                      | 57  | 62.86 (12.39)   | 40  | 58.65 (9.83)    | 40  | 59.98 (10.28)   | 29  | 57.00 (11.25)   | 31  | 56.00 (9.95)    |
| 外向尺度T                      | 57  | 63.32 (14.64)   | 40  | 58.70 (13.46)   | 40  | 60.60 (13.89)   | 29  | 56.86 (15.76)   | 31  | 57.10 (15.45)   |
| 総得点T                       | 57  | 63.97 (13.21)   | 40  | 58.58 (12.43)   | 40  | 59.95 (12.18)   | 29  | 56.17 (13.83)   | 31  | 55.77 (12.89)   |
| 《YSR》 <sup>a)</sup>        |     |                 |     |                 |     |                 |     |                 |     |                 |
| 内向尺度T                      | 29  | 53.69 (11.51)   | 21  | 48.67 (11.06)   | 22  | 46.45 (11.96)   | 16  | 43.00 (13.17)   | 18  | 46.33 (12.86)   |
| 外向尺度T                      | 29  | 50.41 (8.10)    | 21  | 50.05 (10.71)   | 22  | 46.27 (8.63)    | 16  | 42.88 (7.83)    | 18  | 43.00 (7.96)    |
| 総得点T                       | 29  | 53.41 (9.75)    | 21  | 49.71 (10.25)   | 22  | 46.95 (9.54)    | 16  | 41.19 (10.93)   | 18  | 44.22 (11.82)   |
| 《ADHD-RS》 <sup>a)</sup>    |     |                 |     |                 |     |                 |     |                 |     |                 |
| 不注意                        | 58  | 6.33 (6.28)     | 40  | 4.95 (5.55)     | 40  | 4.88 (5.24)     | 29  | 4.17 (5.39)     | 31  | 4.13 (5.66)     |
| 多動衝動性                      | 58  | 5.17 (6.31)     | 40  | 4.10 (5.94)     | 40  | 3.83 (5.64)     | 29  | 3.14 (5.46)     | 31  | 2.84 (4.44)     |
| ADHD合計                     | 58  | 11.50 (11.86)   | 40  | 9.05 (10.69)    | 40  | 8.70 (10.40)    | 29  | 7.31 (10.52)    | 31  | 6.97 (9.67)     |
| 《CDC》 <sup>a)</sup>        |     |                 |     |                 |     |                 |     |                 |     |                 |
| CDC合計                      | 58  | 5.79 (7.30)     | 40  | 3.58 (4.21)     | 40  | 3.63 (3.80)     | 28  | 3.50 (5.06)     | 32  | 3.06 (4.35)     |
| 《IES-R》 <sup>a)</sup>      |     |                 |     |                 |     |                 |     |                 |     |                 |
| 侵入                         | 13  | 6.31 (7.45)     | 14  | 5.43 (6.10)     | 12  | 4.42 (4.56)     | 8   | 5.13 (6.03)     | 10  | 5.20 (5.35)     |
| 回避                         | 13  | 6.38 (6.76)     | 14  | 6.64 (7.30)     | 12  | 6.17 (8.18)     | 8   | 8.63 (8.67)     | 10  | 8.30 (8.97)     |
| 過覚醒                        | 13  | 6.77 (7.64)     | 14  | 5.57 (6.17)     | 12  | 4.33 (6.29)     | 8   | 4.75 (5.50)     | 10  | 3.90 (4.91)     |
| 合計                         | 13  | 19.46 (20.22)   | 14  | 17.64 (18.57)   | 12  | 14.92 (17.07)   | 8   | 18.50 (18.50)   | 10  | 17.40 (16.30)   |
| 《PBI 母親イメージ》 <sup>a)</sup> |     |                 |     |                 |     |                 |     |                 |     |                 |
| MCA 養護                     | 29  | 9.62 (6.10)     | 22  | 9.91 (8.30)     | 23  | 8.70 (8.21)     | 16  | 7.81 (9.02)     | 18  | 6.67 (6.93)     |
| MOP 過保護                    | 29  | 26.34 (5.10)    | 22  | 27.59 (5.35)    | 23  | 28.35 (5.73)    | 16  | 29.81 (4.90)    | 18  | 30.50 (4.94)    |

注) 統計量は、<sup>a)</sup>Mean(SD), <sup>b)</sup>該当人数 (%)を表す。

Table6 各期におけるSCIDの評定結果

| SCID                        |      | ベースライン期<br>(N=40) |       | 3か月後FU期<br>(N=29) |       | 6か月後FU期<br>(N=30) |       | 9か月後FU期<br>(N=22) |       | 12か月後FU期<br>(N=24) |       |
|-----------------------------|------|-------------------|-------|-------------------|-------|-------------------|-------|-------------------|-------|--------------------|-------|
|                             |      | N                 | %     | N                 | %     | N                 | %     | N                 | %     | N                  | %     |
| PTSDの診断基準(現在)<br>にすべて該当したか? | 該当した | 27                | 67.50 | 12                | 41.38 | 15                | 50.00 | 9                 | 40.91 | 11                 | 45.83 |
|                             | 該当せず | 13                | 32.50 | 17                | 58.62 | 15                | 50.00 | 13                | 59.09 | 13                 | 54.17 |
| PTSD症状の重症度                  | 完全寛解 | 0                 | 0.00  | 1                 | 3.45  | 1                 | 3.33  | 1                 | 4.55  | 1                  | 4.17  |
|                             | 部分寛解 | 13                | 32.50 | 16                | 55.17 | 14                | 46.67 | 12                | 54.55 | 12                 | 50.00 |
|                             | 軽症   | 0                 | 0.00  | 1                 | 3.45  | 1                 | 3.33  | 1                 | 4.55  | 0                  | 0.00  |
|                             | 中等症  | 13                | 32.50 | 8                 | 27.59 | 8                 | 26.67 | 4                 | 18.18 | 6                  | 25.00 |
|                             | 重症   | 14                | 35.00 | 3                 | 10.34 | 6                 | 20.00 | 4                 | 18.18 | 5                  | 20.83 |

Note. SCID=Structured Clinical Interview for DSM-IV Axis I Disorder; FU=Follow-up

Table7 母親の精神状態と子どものもぐら一ず成績との相関分析の結果(N=178)

|                 | もぐら一ず成績  |             |        |              |         |        |  |
|-----------------|----------|-------------|--------|--------------|---------|--------|--|
|                 | 正答率      | 正答率<br>ばらつき | 反応時間   | 反応時間<br>ばらつき | 見逃し     | お手つき   |  |
| <b>IES-R</b>    |          |             |        |              |         |        |  |
| 侵入              | -0.09    | 0.03        | 0.08   | 0.02         | 0.10    | 0.06   |  |
| 回避              | -0.03    | -0.04       | -0.03  | -0.11        | 0.06    | 0.00   |  |
| 過覚醒             | -0.13    | 0.12        | 0.13   | 0.06         | 0.12    | 0.09   |  |
| 合計              | -0.08    | 0.03        | 0.06   | -0.02        | 0.10    | 0.05   |  |
| <b>DES-II</b>   |          |             |        |              |         |        |  |
| 合計              | -0.20 ** | 0.11        | 0.17 * | 0.07         | 0.21 ** | 0.14   |  |
| <b>PTGI</b>     |          |             |        |              |         |        |  |
| 自己に関する否定的な認知    | -0.15 *  | 0.08        | 0.11   | 0.12         | 0.11    | 0.14   |  |
| トラウマに関する自責の念    | -0.10    | 0.02        | -0.03  | 0.02         | 0.07    | 0.10   |  |
| 世界に関する否定的な認知    | -0.16 *  | 0.10        | 0.17 * | 0.11         | 0.16 *  | 0.12   |  |
| 合計              | -0.16 *  | 0.08        | 0.10   | 0.11         | 0.12    | 0.14   |  |
| <b>SCL-90-R</b> |          |             |        |              |         |        |  |
| 身体化             | -0.17 *  | 0.11        | 0.15 * | 0.06         | 0.17 *  | 0.12   |  |
| 強迫観念            | -0.16 *  | 0.11        | 0.14   | 0.08         | 0.17 *  | 0.11   |  |
| 対人過敏            | -0.21 ** | 0.10        | 0.14   | 0.09         | 0.20 ** | 0.16 * |  |
| 抑うつ             | -0.13    | 0.09        | 0.15 * | 0.08         | 0.14    | 0.10   |  |
| 不安              | -0.15 *  | 0.08        | 0.10   | 0.06         | 0.13    | 0.12   |  |
| 怒り              | -0.17 *  | 0.10        | 0.15   | 0.08         | 0.23 ** | 0.08   |  |
| 恐怖症             | -0.12    | 0.12        | 0.15 * | 0.06         | 0.12    | 0.08   |  |
| 妄想的思考           | -0.19 *  | 0.11        | 0.14   | 0.10         | 0.17 *  | 0.15 * |  |
| 精神病傾向           | -0.11    | 0.03        | 0.11   | 0.04         | 0.10    | 0.07   |  |

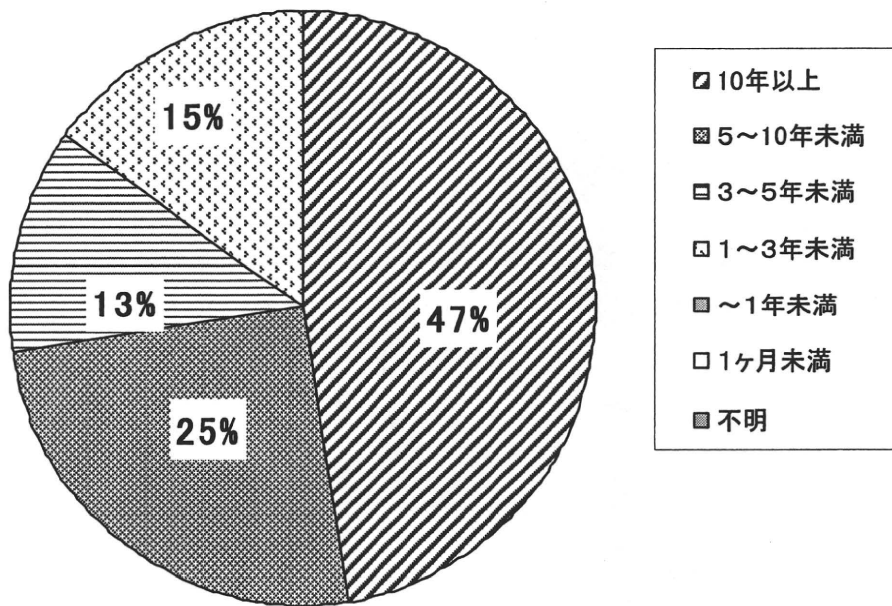


Fig.1 母親のDV被害期間(N=40)

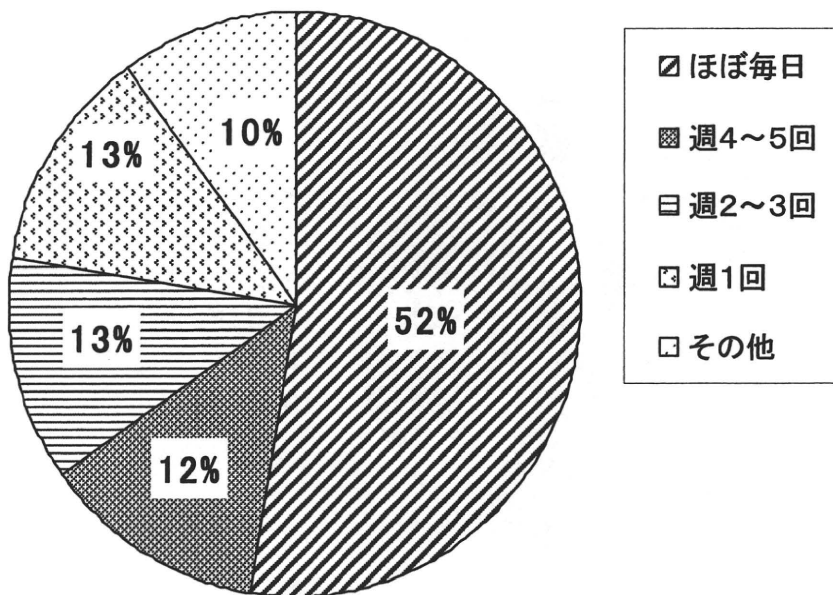


Fig.2 母親のDV被害頻度(N=40)

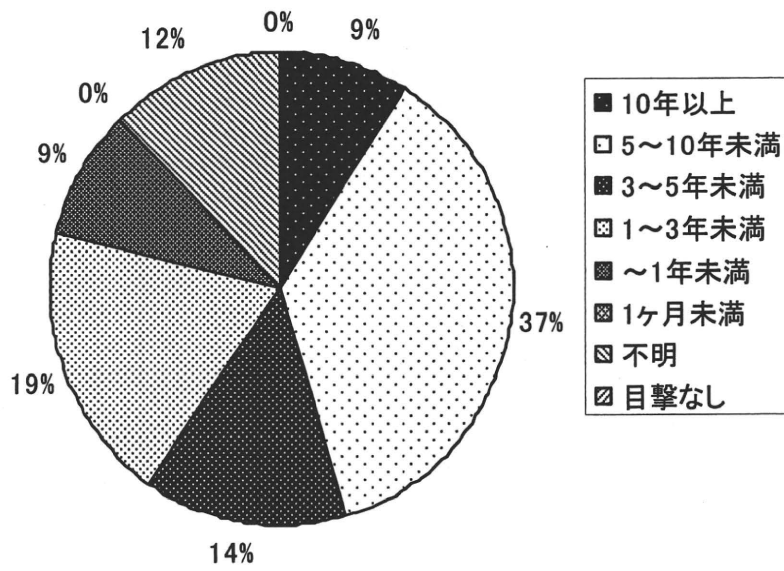


Fig.3 子どもの直接の被害期間(N=57)

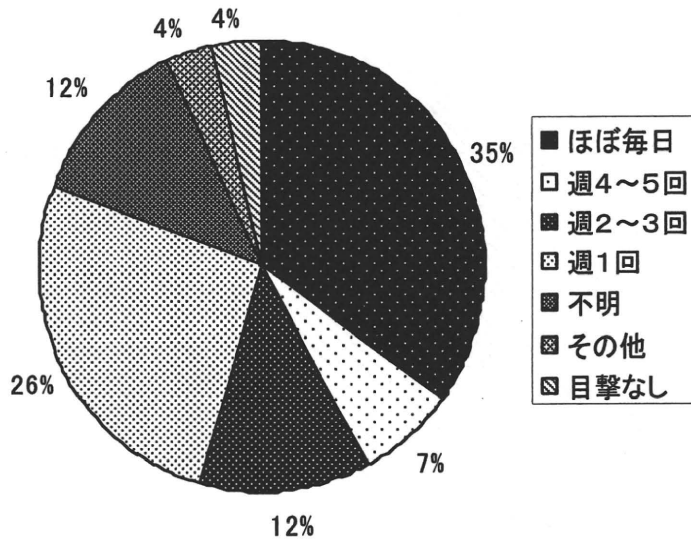


Fig.4 子どもの直接の被害頻度(N=57)

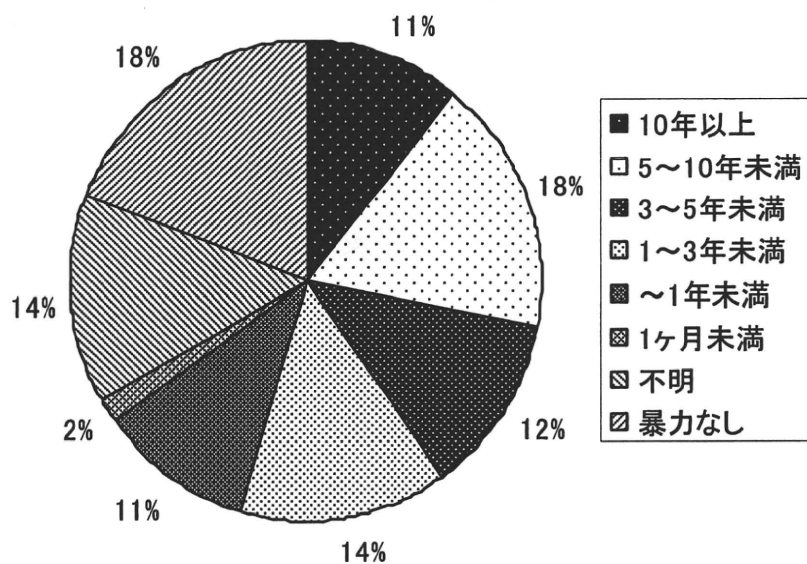


Fig.5 子どものDV目撃期間(N=57)

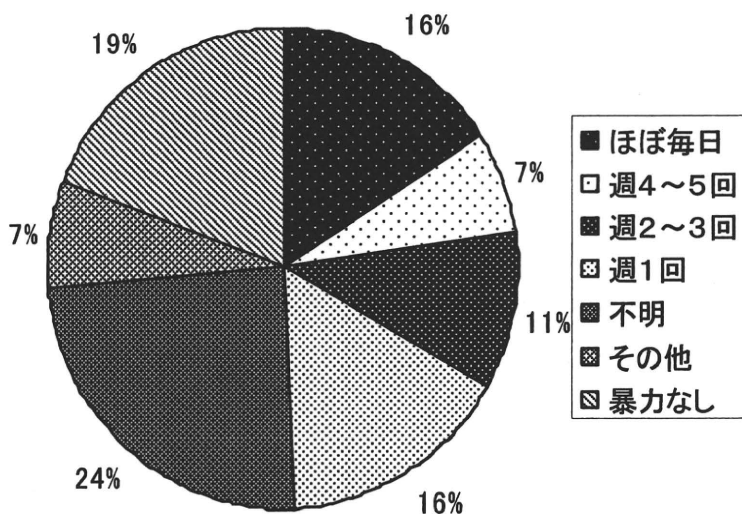


Fig.6 子どものDV目撃頻度(N=57)

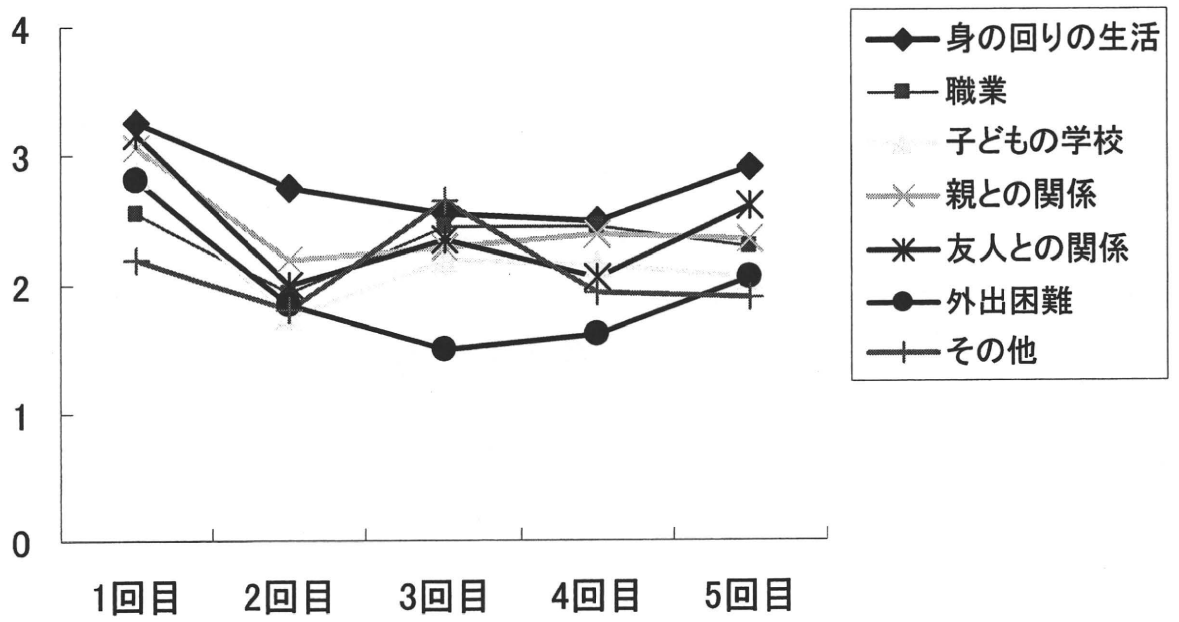


Fig.7 DV 被害による生活への影響度の変化(N=20)

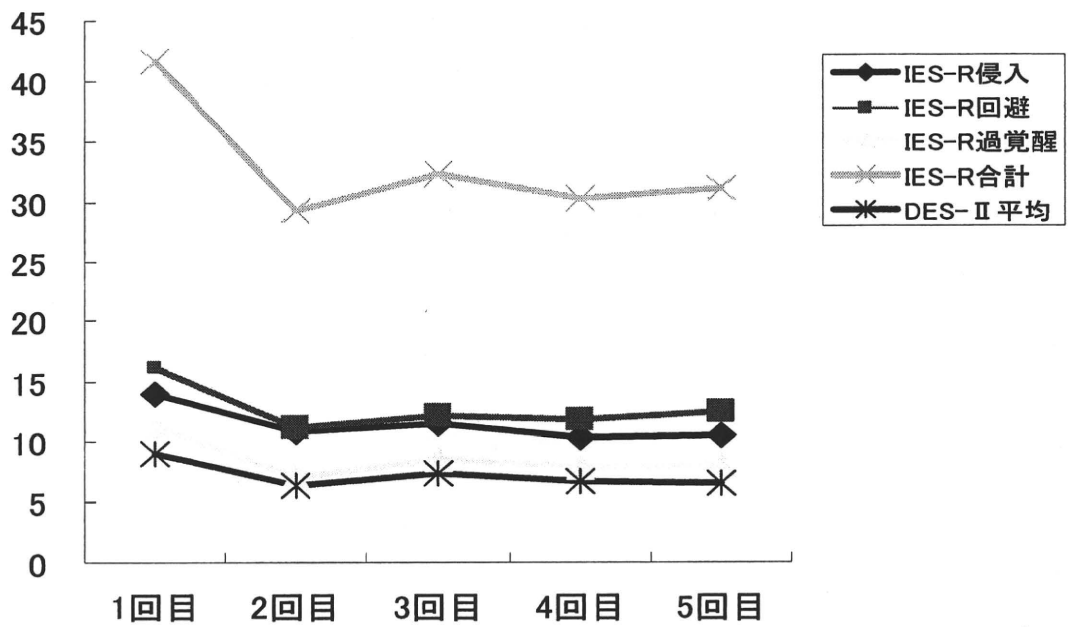


Fig.8 母親の IES-R と DES-II 得点の変化 (N=20)

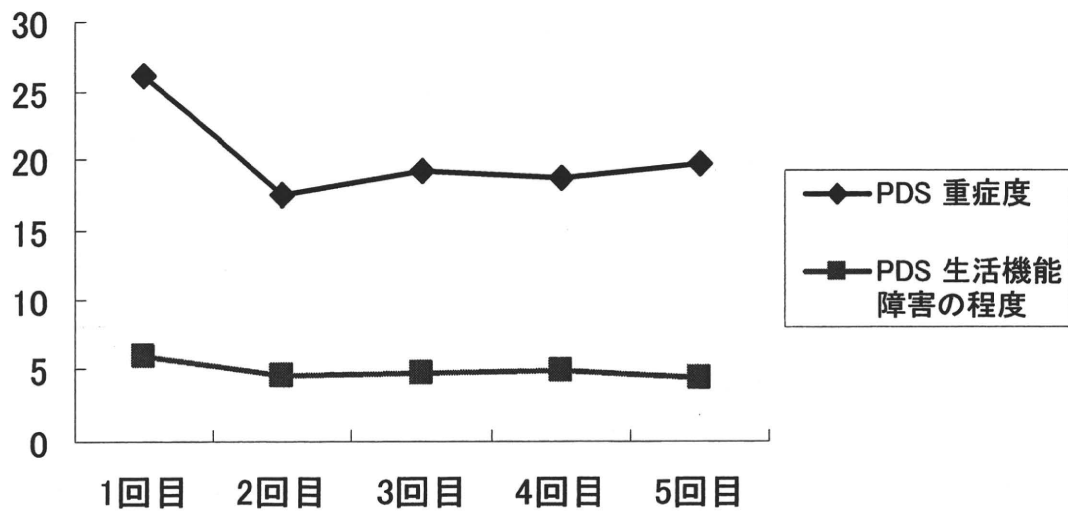


Fig.9 PDS で評定された PTSD 症状の重症度と生活機能障害の程度の変化 (N=20)



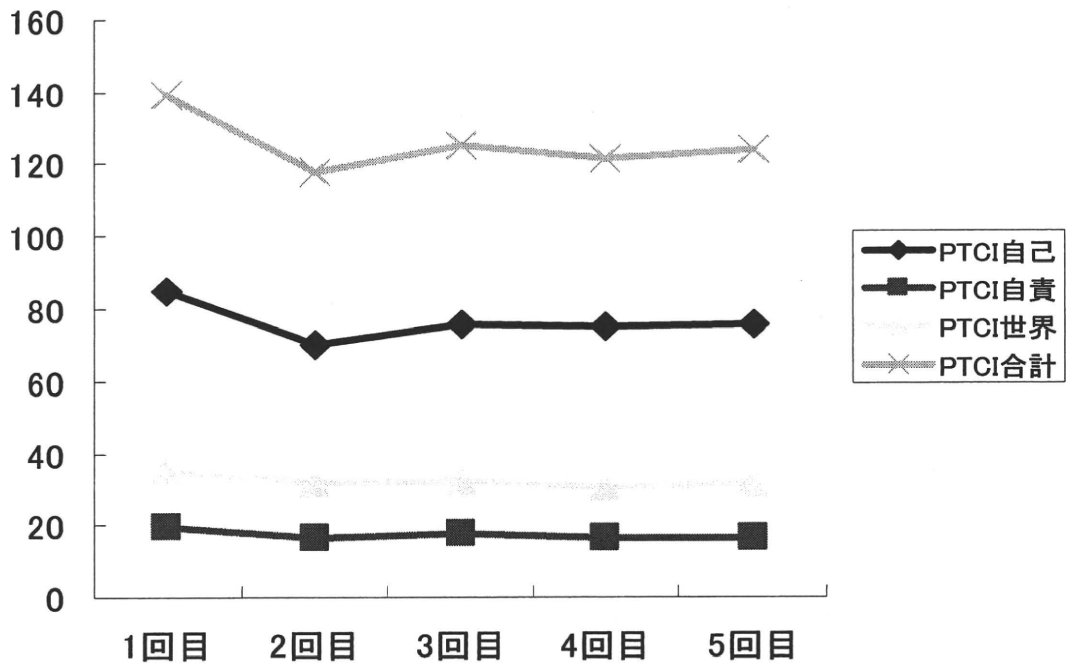


Fig.10 PTCI 得点の変化 (N=20)

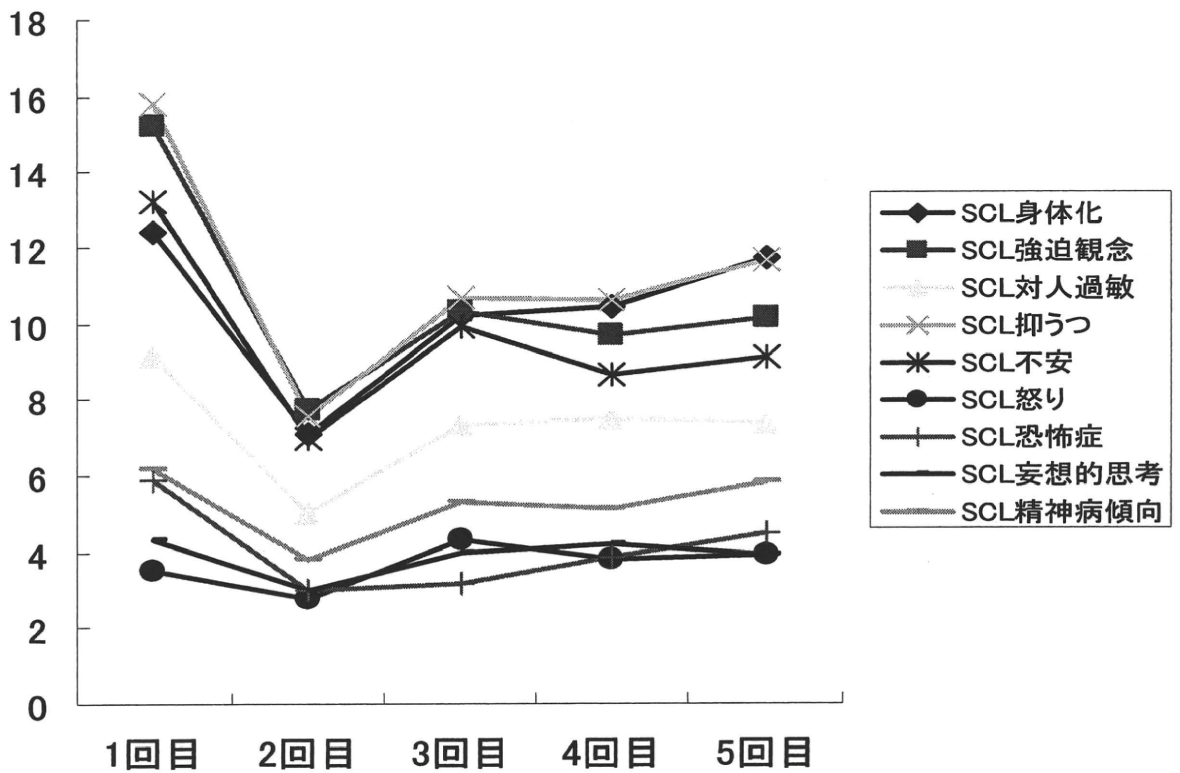


Fig.11 SCL-90-R 得点の変化 (N=20)

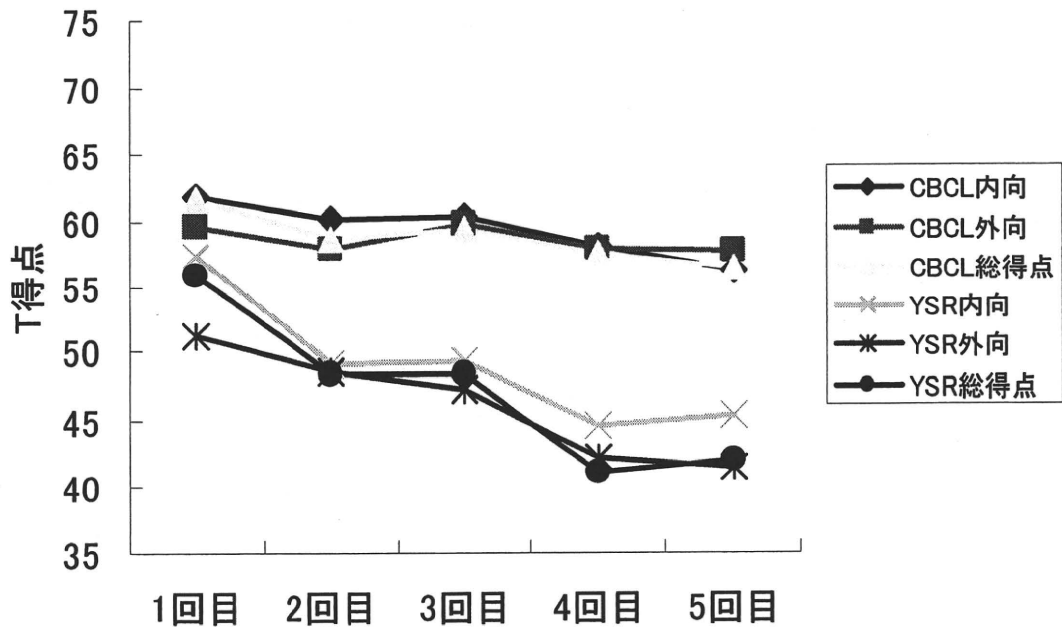


Fig.13 CBCL 得点と YSR 得点の変化 (CBCL は N=24, YSR は N=11)

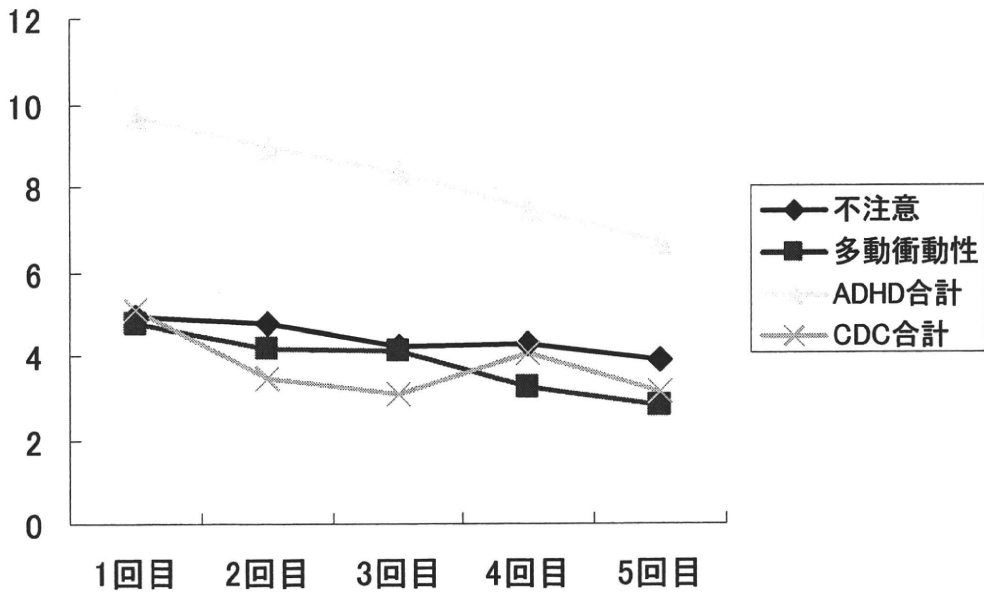


Fig.14 ADHD RS-IV-J 得点と CDC 得点の変化 (N=24)

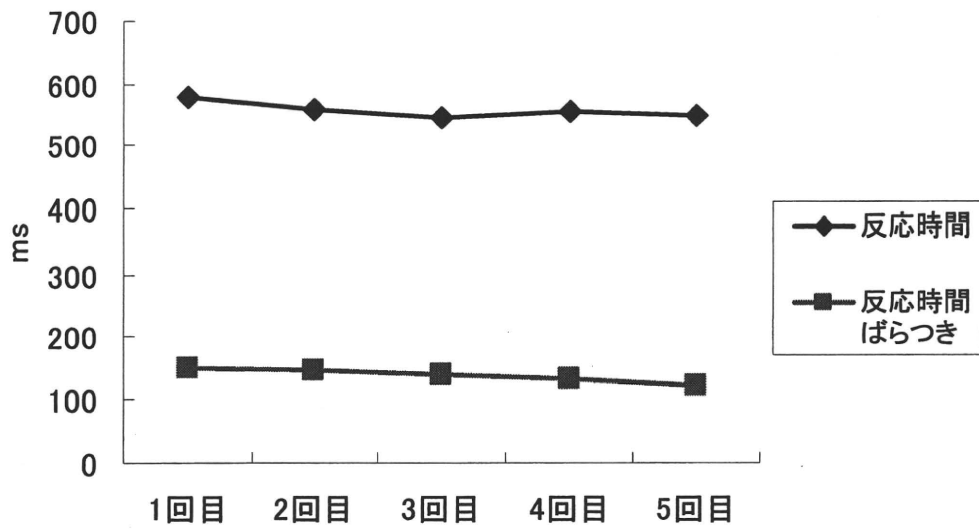
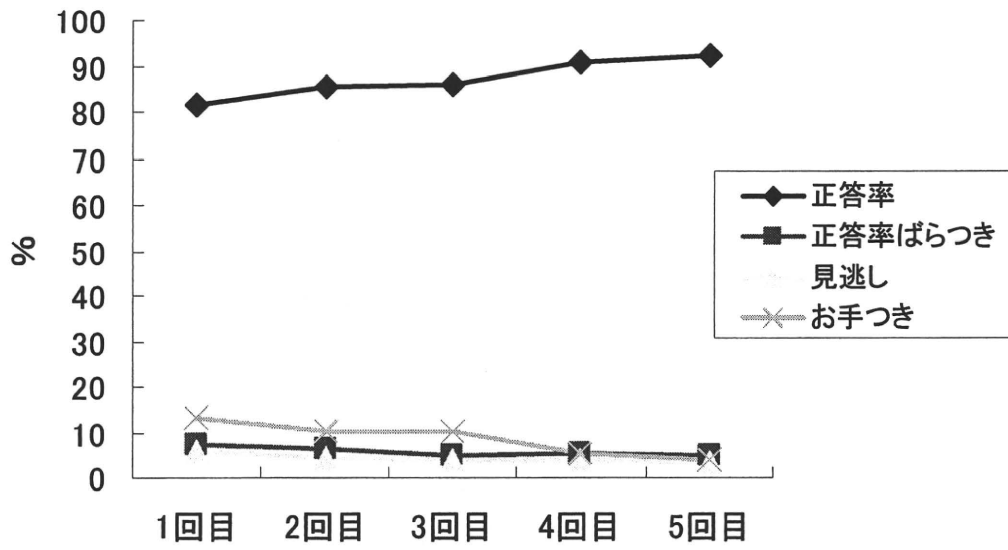


Fig.15 もぐら一ず成績の変化 (N=21)

平成 22 年度厚生労働科学研究障害者総合対策研究事業  
「大規模災害や犯罪被害等による精神科疾患の実態と介入方法の開発に関する研究」  
研究分担報告書

少年施設入所者における被虐待体験と精神医学的問題に関する研究  
——被害体験と自殺行動の関連に注目して——

研究分担者: 松本俊彦<sup>1</sup>

研究協力者: 千葉泰彦<sup>2</sup>, 今村扶美<sup>3</sup>, 小林桜児<sup>3</sup>, 高野 歩<sup>4</sup>

1. 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
2. 横浜少年鑑別所
3. 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター病院
4. 東京大学大学院精神看護分野

**研究要旨** 本研究では、少年鑑別所男女入所者 1710 名に対し、M.I.N.I.を用いた自殺傾向と外傷後ストレス障害（以下、PTSD）診断に関する構造化面接調査を行った。その結果、女性の少年鑑別所入所者は、男性に比べて高度な自殺傾向を呈する者が多く、その 3.1%が現在 PTSD に罹患していることが明らかにされた。また、PTSD 症状の存在は、女性入所者の進行した非行・犯罪性とも有意に関連し、男女ともに自殺傾向とも有意に関連していた。さらに PTSD 発症に関連する外傷体験の種類は、男性では身体的暴行と性的暴行であり、女性では近親者の突然死であることが明らかにされた。

本研究では、少年鑑別所の女性入所者には高度な自殺リスクや PTSD 症状を呈する者が少なくなく、矯正施設といえども施設内における精神保健的介入が必要であることが示唆された。また、少年鑑別所入所者におけるトラウマケアは、若年者の自殺予防はもとより、社会安全のためにも一定の意義を持つ可能性も示唆された。

#### A. 背景と目的

海外では早くから、幼少期における被虐待体験が成人後の様々な攻撃的行動と関連することが指摘されてきた。他者に対する攻撃的行動としては、Maxfield と Widom (1996) は、20 年以上にもおよぶ長期間の追跡調査から、幼少期における身体的虐待とネグレクトの体験が成人期における暴力や様々な犯罪と有意な関連があることを明らかにしている。また、Conner ら (1998)

は、司法病棟入院患者を対象とした調査から、被虐待歴を持つ患者では他者に対する攻撃的行動が著明であることを報告している。

その一方で、海外では、被虐待歴を持つ者では、自己に対する攻撃的行動が顕著であることも指摘されてきた。たとえば van der Kolk ら (1991) は、被虐待児は自傷行為や食行動異常、あるいは物質乱用といった広範な領域におよぶ自己破壊的行動を呈